

デザインは課題を解決するチカラをもっている

「デザインは課題解決である」

この言葉を耳にしたことのある方は少なくないだろう。多くの賢人が同様の考えを述べてきた。たとえば、20世紀を代表するフィンランドの建築家アルヴァ・アアルトは「デザインは人間のための問題解決だ」と語っている。

この言葉が意味するものは、デザインを単なる“見た目の美しさ”を整える行為として捉えるのではなく、深層に潜む課題を見つけ出し、それにふさわしい解をカタチにする営みとして捉えることにほかならない。

ある歯科医院で「面接に来た求職者の採用決定率が低い」という課題があったとする。背景を丁寧に読み解くと、求人情報に記載の待遇は他院より好条件であるにもかかわらず、求職者にとって院内の環境が魅力的に映っていないことがわかった。

そこで、診察室と滅菌コーナーの改装を実施し、スタッフが安心して診療に臨める環境を整えた。清潔で明るい診療空間はスタッフのモチベーションを向上させ、同時に求職者は「この歯科医院で働きたい」と魅力的に感じるようになり、採用決定率が上昇した。

このように、目に見えるモノを美しく整えるだけでなく、目に見えない「不安」や「心理的なハードル」といった課題の解消こそが、デザインの本質的な意味といえる。

「真の課題を見つけ出し、デザインのチカラによって解決へと導く」

これこそが、本書の主題となる「デザインソリューション」である。

私はこれまで20年以上にわたり、歯科医院の空間デザインに携わってきた。手がけたデザインは、1つとして同じものが存在しない。それぞれに異なる悩み、想い、そしてストーリーがある。表面的には似たような課題に見えても、クライアントが抱く理想や価値観、医院の理念によって、最適な解決策は異なる。つまり、空間デザインのあり方も大きく変わってくる。だからこそ、私たちが手がけてきた歯科医院は、唯一無二の個性をもつ空間となっている。

本書は、これまでにご縁をいただいた歯科医師の方々のリアルな想いに向き合い、カタチにしてきた経験を通して得た「気づき」を言語化し、さらに時代背景を踏まえたものになっている。本書が「未来の歯科医院づくり」に役立つヒントとなり、読者の皆様の勇気に繋がることを心から願っている。

スタイル・エイチ・デザインワークス 代表
雨谷祐之